

心と体をリラックス！

第6回北日本三強区親子短期保養プログラム

8月18日～23日、福島県・宮城県より10組24名の親子を北海道に迎えて、保養プログラムが持たれました。福島原発事故以来、日常的に放射線量を心配しながらの生活から少しだけ離れて、こどもたちものびのびと遊ぶことができたと思います。北海教区からも多くの方々が食事やレクリエーションの協力をいただきました。

《主なプログラム》

- 18日 歓迎会・夕食・レクリエーション
協力：札幌北部教会・札幌地区の青年
- 19日 青少年科学館・テレビ塔・
きょうけつ染め（うちわ作り）
協力：札幌地区の青年・真駒内教会
札幌北光教会・琴似中央通教会
- 20日 自由日（札幌・小樽・旭川などの観光）
- 21日 洞爺サンパレス宿泊・白老ポロトコタン
洞爺湖ロングラン花火大会
- 22日 ネイパル森宿泊・創作活動・野外炊事
協力：道南地区有志
- 23日 函館観光

センター」の支援活動に派遣されました。教区からの要請メールには、「あちらでの通常ワークは屋外での活動」とありましたから、平均年齢が60歳を越しているわたしたちが、お役に立てるものか不安になり、まずは教区に確



「道南地区からの報告」

エマオ・ボランティア7月14～18日

三浦きょうこ

7月14日から18日まで、わたしたち道南のメンバー4名（男2・女2）は、仙台エマオにある「東北教区被災地支援



センター」の支援活動に派遣されました。教区からの要請メールには、「あちらでの通常ワークは屋外での活動」とありましたから、平均年齢が60歳を越しているわたしたちが、お役に立てるものか不安になり、まずは教区に確認をいたしました。幹事からは「去年は71歳の方が参加しても大丈夫でしたよ。」との返事。それではと、不安を抱きつつ出発です。日程五日間の内、最初と最後の二日間は移動日、中三日が活動日でした。一日目午前中、若林区荒浜地区と閑上地区の被災地見学。みなさんが震災時、TVで繰り返し見たであろう仙台平野の広域に津波が襲った地域です。お昼を仮設の店舗でとり、その後の日々の作業内容は、仮設住宅でのラジオ体操、引き続き「お茶っこ」の時間（お話を聞く）、笹屋敷近辺の農家の手伝い、個人宅の雑草取りなどです。作業が終わった後は、エマオで毎夕参加者全員のミーティングと祈りの時があり、分かち合いの時を持ちます。日本各地から、そして台湾長老教会から派遣された若者たちが一緒でした。

対照的に感じたことは、仮設住宅の方々と修復した自宅で農家をしておられる方々の表情でした。前に進む方と進めない方の二極化が顕著になりつつあります。そんな被災地において、センターの、心配りしながら弱いものに継続して寄り添っていく姿勢に頭が下がります。

離れてしまうと人ごとのように感じられてしまう被災地。しかし、継続して現状を知り、支援していく大切さを再確認させられました。また、今後の災害に向け被災地でのボランティア活動のノウハウを伝達していく大切さを感じました。長靴を泥だらけにして帰ってきた五日間、どうぞ、みなさんも百聞は一見にしかず…。この体験を、主そして教区に感謝です。一日も早い被災地の人々の真の復興を願っています。